

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170401798		
法人名	株式会社 日総		
事業所名	ふれあいの里 グループホーム とみおか		
所在地	札幌市手稲区富丘2条4丁目11-15		
自己評価作成日	平成22年10月30日	評価結果市町村受理日	平成22年12月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

木の造りにこだわり、落ち着いた温かみのあるお部屋になっており、食事管理栄養士によるパランスのとれた多彩なメニューで入居者、御家族様からも喜ばれております。
本年度より、内・外のスタッフ研修の機会を多く取り入れ、個々の意識向上に向けていけるよう努めています。

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170401798&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成22年11月15日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「ふれあいの里 グループホームとみおか」は主要幹線道路のバス停から近く、本数も多いので訪問に便利な住宅街に位置している。建物は全体的に広々としており、クッション性の床暖房で温度、湿度なども調整され、快適と安全に配慮された環境である。前回の外部評価の結果を踏まえて、運営推進会議を通して町内会の活動に参加し、事業所の「富丘まつり」には住民を招待したり幼稚園の行事に参加するなどして、利用者と住民との交流の機会に工夫を凝らして積極的に関わっている。火災避難訓練にも住民や家族の参加を得られている。2ヶ月ごとの給食会議で利用者の好みを入れた栄養パランスのある献立を作り、誕生日や行事には外食や出前を盛り込み、事業所の菜園で収穫した旬のものを食卓に添え品数も多くして食べる楽しさを提供している。介護度が重い利用者も増えているが外気浴や外出行事も取り入れており、さらに工夫を重ねながら外気に触れる機会を意欲的に進めている。管理者とともに職員は質の向上に向け、認知症対応の研修などで学びながらケアスキルを高め、温かい対応で接しており、利用者は家庭的な雰囲気の中で楽しく会話を交わしている。

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)		項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します	
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着の意義、大切さを理解できるよう日常のミーティングやカンファレンスで考える機会を持つよう努めている。	事業所独自の理念に、地域社会での触れ合いを大切にする文言を加え、分かりやすい文章に作り直している。理念は要所に掲げ、会議や申し送りなどで確認し共有している。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しており、利用者様にも、花壇作りやごみ拾い、などに参加している。又、ホームの行事にも参加いただいている。	町内会の活動に参加し、散歩中にも挨拶を交わし地域に溶け込むように努めている。近くにある幼稚園の盆踊りに参加している。事業所の「富丘まつり」には住民を招き、またボランティアの訪問もあるなど、外部の人との触れ合いも得られている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会の総会に参加し認知症に対する理解など話す機会をいただいたり、運営推進会議を通して、福祉にまつわる情報を発信したり、ホームの行事に参加頂き、実際に利用者に関わることで認知症に対する理解につなげている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヵ月に1度開催しており、利用者の生活の様子や行事報告などを行っている。また地域の方を含めた勉強会や避難訓練なども合わせて実施している。	運営推進会議は定期的開催しており、家族の参加が多い。外部から講師を招き、利用者も参加する中で健康についての勉強会も行っている。会議終了後メンバーも参加し、消防署の協力の下で避難訓練を実施するなど、運営推進会議の機会を捉えて有効に取り組んでいる。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を通して地域包括支援センターとの協力関係を築いている。	介護保険課や生活保護課の担当者と事例を通して話し合い、解決に繋げることもある。区が主催する「ふれあいフェスティバル」に地域住民の施設見学の依頼を受けて協力している。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は施錠せず、玄関ドアも自由に出入りできるようにしている。身体拘束については、内部研修などでも取り組んでいる。	マニュアルや外部研修での報告をもとに、身体拘束についても学んでいる。拘束に繋がる簡単な言葉を掲示し、ケアに入る前の意識化を図っている。利用者が頻繁に外に出ようとする場合、職員一人の時間帯には家族の同意の下に一時的に玄関の鍵をかける時もあるが、日常的には施錠をしないで見守っている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内、外部研修等で学びながら意識しながら支援・援助に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>職員が制度を学ぶ機会が少ないため、今後は取り組んでいくよう検討していきたい。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居時、改定の際は本人、ご家族に対し十分な説明をさせていただき、理解と納得を図っている。</p>		
10	6	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>出入口に意見箱を設置している他、アンケート調査を実施、運営に反映させている。</p>	<p>年に1回、本部で事業所のアンケートを実施し、結果を踏まえて運営に反映させている。運営推進会議終了後の家族会議や来訪時に出された意見を記録にして、会議や申し送りなどで随時対応を話し合い改善に努めている。</p>	
11	7	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>全体会議、フロア会議、などで意見や要望を聞きながら提案を図り反映に努めている。</p>	<p>会議では業務について意見を交換し、個別のケアについての提案も介護計画に取り上げられている。年に1回個人面談があり、また必要な時は個別に管理者に相談しながら確認できるなど、いつでも意見が言いやすい環境にある。</p>	
12		<p>就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>状況にあわせて、個別に面談する機会を設けながら意見交換を行い、向上心を持って働けるような環境作りに努めている。</p>		
13		<p>職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>年間の研修計画を立て、内、外部研修に参加する機会を設け学ぶ機会を設けている。</p>		
14		<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>研修会、交流会を通し交流する機会を作っている。管理者会議、社内研修会に出席し交流を持ちながら質の向上に取り組んでいる。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の既往歴や生活歴、不安や要望など職員間で把握したうえで、利用者との良好な関係作りに努めています。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望、意見などを理解し、事前に話し合いながら信頼関係を築けるよう努力している。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ニーズに合わせた情報提供をしながら、本人、家族等が必要としている支援を見極め、対応するよう努めています。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活でお互い支えながらも、人生の先輩であることを尊重しながら信頼関係を築き、穏やかな生活ができるよう努めている。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は日々の利用者の健康状態や生活状況を伝えることで、協力関係を築けるよう努力している。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	すべての利用者に確立されていないが、家族の協力を得ながら馴染みの知人等に訪問してもらえるよう努めている。	家族の協力を得ながら、前に住んでいた場所や美容室、外食などに出かけている。郵便物の投函や電話の取次ぎなどを一緒にして、馴染みの関係を継続できるように支援している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、共通して楽しめる行事や話題づくりを支援し、良好な関係を保てるよう配慮しております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了に際しても、本人、家族に対して変わらず相談、支援ができるよう努めています。		
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々関わる中での言葉や表情から、思いや希望意思の把握ができるよう努めている。	利用者の状態をセンター方式のアセスメントで把握し、暮らしの希望を参考にしている。また利用者との会話や声かけの中で表情を捉えて意向を探り、職員間で情報を共有し介護計画に盛り込んでいる。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際に本人、ご家族様から頂いた情報を職員間で共有しながら、これまでの生活歴、過ごしてきた環境などの把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送りやカンファレンスなどで利用者の現状把握に努めています。心身の状態や様子の変化があればその都度対応するよう努めています。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間で意見を出し合い、その方らしい暮らしができるよう作成している。	新規の場合は暫定計画を作成後1ヶ月以内に見直し、その後、状態に変化がなければ遅くとも4ヶ月以内に見直している。見直し時期に介護計画作成者は担当職員に情報を聞いてモニタリング表を作成しているが、職員も記録できるような工夫が望ましいと思われる。	課題をさらに深めることで、職員がモニタリングに記入する機会に期待したい。また、モニタリング表、カンファレンス要点、評価欄の記入といった介護計画の見直しに沿ったわかりやすい書類の整備にも期待したい。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に介護記録を記入し、本人に関する気づきや訴えなどに対し、研修会や日々の申し送りで確認し検討しながらケアに活かせるよう努めています。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族様の状況により、病院受診や入退院時の送迎、本人の買い物など可能な限り本人の要望に応じられるように努めています。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センター、町内会、消防署、地域ボランティアの協力を受けての支援に努めている。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関体制の他、通院等個々の要望に応じた支援を行っている。本人、家族の要望を尊重し、入居前からのかかりつけ医に受診している方もいる。	毎週の協力医の往診、口腔ケアの指導を受けながらの歯科往診、必要時に皮膚科の往診などがある。入居前のかかりつけ医を継続している場合は、各医療機関の受診に職員が同行し連携を密にしている。結果を家族に報告し、受診記録で情報を共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の協力医療機関による訪問診療の他、特変があった場合は、看護師による相談、アドバイスがもらえるよう体制を整えている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際、医療域間や家族より経過報告を受け退院後の速やかな対応ができるように心掛けております。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現行のなか、本人、ご家族の意向を聞きながら重度化した場合や終末期のあり方について、共に考えながら説明させていただいております。	利用開始時に重度化に伴う対応方針を文書で説明し、医療処置が続く場合は事業所での生活が難しいことに同意を得ている。状態の変化時にはその都度関係者で話し合い、病院の紹介を含めて方針を確認している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に応急手当や初期対応に関して、職員間で確認、研修会などを行いながら対応できるように努めています。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な防災訓練の実施、運営推進会議を通じ地域の方々のご協力を頂いております。	年に2回、消防署指導の下に、日中、夜間を想定した火災・避難訓練を行い、通報訓練も実施している。訓練には運営推進会議のメンバーや利用者・家族も参加している。現在、緊急時や防災時の地域住民の具体的な協力の取り決めなどを検討中である。	住民が協力できる役割や緊急連絡の方法、冬季の避難場所などについても運営推進会議でさらに深めるよう期待したい。火災以外の災害時にも対応できる備蓄などの検討にも期待したい。
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員全員が利用者様を1人の人間として尊厳を重視し、言葉使いに配慮しながら対応している。	利用者のプライバシーに配慮した声かけに努めており、気付いたことがあれば注意している。個人記録などは事務所に安全に保管している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で本人の意思や希望などを傾聴しできる限り希望に沿った支援ができるように努めています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の残存能力に配慮しながら、一人ひとりのペースに合わせて支援できるよう心掛けております。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定できる方は、それを尊重していただき困難な方には、その人らしいおしゃれができるよう支援しております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と共に調理補助や後片づけなど、個々にあった作業をし、食に対する興味が持てるようできる限り参加して頂いております。	音楽をかけ、利用者と職員が会話しながら楽しく同じ食事を摂っている。調理の補助や下膳、食器洗い、食器拭きなど利用者にてできることを手伝ってもらっている。また、行事での特別メニューも取り入れている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は管理栄養士により作成され、バランスのよい食事を提供、食材も毎日配送されてくる。水分摂取量も表を活用し、摂取の把握に努めています。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者の状態に合わせて、見守り、介助にて口腔ケアを行い、週に1度訪問歯科の医師による口腔内チェック、または症状により治療を行い状態の把握、管理に努めております。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、表情や行動の変化を見逃さないように声掛け、誘導を行っている。	個人記録にて排泄時間などを記録しパターンを把握して、さり気なく誘導している。なるべくトイレで排泄できるように支援し、おむつを外されるほど改善が見られた方もいる。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表のもとに一人ひとりの排泄パターンを把握しおやつ、水分補給にも工夫しながら自然排便を心掛けている。便秘がちな方に関しては、医療機関に相談、助言を基に支援しています。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴表により均等に入浴して頂いている。拒否や体調が思わしくない場合は状況に応じて、臨機応変に対応しています。	往診日の水曜以外は毎日入浴可能で、各利用者が週2～3回程度入浴している。拒否がある場合は翌日にしたり、清拭や足浴での対応も行っている。お湯の温度や入浴の長さなども希望に合わせている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体調や希望に答えながら、居室にて休んで頂くよう促している。適度な運動と日中の生活リズムを整えるような支援に努めております。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理のもと、個々の服薬表を用意して、服薬確認者は責任を持って押印をしている。薬の変更もその都度表の内容を変更し、確認できるよう徹底しています。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴に考慮しながら、孤立や仲間割れなどが起きないように職員が間に入りながら、よい関係が保てるように努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>利用者の体調を考慮しながら、可能な限り散歩や外食、外出レクなど外出の機会が持てるよう努めております。</p>	<p>夏場は毎日のように近くの公園や保育園のあたりまで散歩したり、ドラッグストアや八百屋に買い物に行っている。冬場でも天気の良い日はホーム前の駐車場などで外気浴をしている。年間行事では、菜園作り、花見、動物園や温泉などで外出を楽しんでいる。</p>	
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>実際本人に金銭管理をお願いしておりませんが、お金を持つ事の大切さを考慮し、ご家族様と職員が協力しながらホームで管理をしております。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>本人の希望により手紙のやりとりや電話も自由にできるよう支援しております。</p>		
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者様の作品展示や、行事などの写真を飾り季節感を感じさせる工夫をしております。すべての位置から居間が見わたせるような、広い空間の中で居心地良くお過ごしいただいております。</p>	<p>共用空間は広く開放的で、利用者の写真や手作りの作品、色とりどりの季節の装飾などが飾られ、にぎやかな、親しみの持てる雰囲気を作っている。トイレは広くて数も多く、浴室には窓があり明るい。床暖房で温度、湿度なども調整され快適である。</p>	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>居間のソファは利用者同士向い合わせになるよう配置をし、コミュニケーションの場を確保している。居間で1人でお過ごしになりたい方は食卓テーブルでお過ごしいただく方もいらっしゃる。</p>		
54	20	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ご本人が慣れ親しんだ家具や思い出の品、食器など持ち込み安心感が持てるよう努めています。</p>	<p>居室には利用者が自由に戸棚やテレビ、家族の写真など馴染みの品物を持ち込むことができ、安心して過ごせる場所となっている。壁にもカレンダーや写真など利用者が自由に飾り付けをすることができている。</p>	
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>個々の利用者の出来ること、出来ないことを見つめながら、負担のかけぬよう自立を尊重した支援をするよう努めます。</p>		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170401798		
法人名	株式会社 日総		
事業所名	ふれあいの里 グループホーム とみおか		
所在地	札幌市手稲区富丘2条4丁目11-15		
自己評価作成日	平成22年10月30日	評価結果市町村受理日	平成22年12月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「1Fユニット」に同じ

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170401798&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成22年11月15日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)			

(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に近付くよう努めています。もう少し分かりやすくまた、地域密着に関わる言葉を入れて行きたい。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会総会、春の花植え等の行事に参加している。地域のボランティアとの交流や散歩等で交流が持てるよう努めている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会総会時、質問を受けたり、運営推進委員会等で認知症の話をして少しずつ理解、支援の方法を活かしている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	報告、話し合いを行い議事録を送付しサービス向上にいかしている。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	包括、保護課、福祉課、社協等相談しながら協力関係を築くよう努めている。		
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルに基づき、カンファレンス、講習終了時等、話し合い、日中施錠は行わず身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルに基づき、カンファレンス、講習終了時等、話し合い虐待防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	カンファレンス、講習、会議等話し合い活用できるよう努めているが、活用が少なく意識も薄い。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書、契約書の説明を十分時間をとり、家族の不安疑問があれば速やかに対応できるよう努めています		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に御意見箱を置き、御家族にアンケートを送り、要望に対し話し合い改善し、運営に反映させている		
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝、夕申し送り、カンファレンス時等に意見提案を聞き、必要に応じて個別面談を行い運営に反映させるよう努めている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	向上心が持てるよう研修等に時間をとり、働きやすい環境を整えるよう努力している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一年間の研修計画をたて内部研修、他事業所との交流を行い、外部研修の機会も多く設けるよう努めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じ区の集まりに参加し、区のお祭りにも参加し交流の機会を作るよう努めています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人の話を傾聴し、安心を確保するための関係づくりに努めている、		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安、要望をしっかり受け止めた上で信頼関係づくりに努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話を傾聴し必要としている支援、サービス利用の対応に努めている		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人としての関わりをたいせつにし、コミュニケーションをとりながら、共に支え合う関係に努めています		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪時、御家族に最近の暮らしの様子等の話をし、また、利用者とゆっくり過ごせるよう努めています		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	居室、居間に馴染みの写真、飾り等置いている。行事等にも参加していただき馴染みの関係継続の支援をしている。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を把握し、ホール内でレクリエーション、食器拭き、洗濯物たたみ等利用者同士の関わりが円滑に行くよう支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療に繋がった方のお見舞いに行き、相談や支援に努めている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションをとりながら、希望意向を把握するように努めている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活歴やライフスタイルを把握し利用者個々に適した支援に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に見守り目配りし、心身の変化、有する力等把握するよう努めている		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人御家族の要望希望、カンファレンス時のモニタリング等から計画を作成している。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りや受診ノートなどで、情報を共有しながらケアプランに添って記入し、実践や計画にいかしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物、外出等、柔軟な支援、サービスの多機能化を取り入れるよう努めています。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアの受け入れを行ったり、地域の公園散歩、買い物等暮らしを楽しむことができるよう支援している。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関とは別に、個別の受診を行っている。本人、家族の意向に沿いながら、適切な医療を受けられるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問時、日常の健康管理のほか電話対応も受けている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時の医療機関との情報交換、関係作りを行うよう努めている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の対応に関わる指針として説明し同意を得ている。終末期の対応は、医師、御家族、本人、とその都度話し合いを行い対応するよう努めている。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	カンファレンス、申し送り時、急変事故発生時の話し合い講習を実践している。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアル作成し、総合避難訓練年2回通報訓練2回実施し講習にも参加している。町内会の方との避難訓練、緊急時の協力体制作りに努めている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格尊重とプライバシーを確保するような言葉掛け、対応に努めています。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で、コミュニケーションをとり、思いや希望を表し、自己決定できるように努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に、臨機応変に対応し、その人らしい暮らしができるよう努めている		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に一度訪問理容が入っている。着替え時、ご自分で服を選んでいただくよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個別に食事形態を変え、工夫している。利用者のできる範囲内で職員と一緒にしています。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士のバランスの取れた献立により調理しています。一日の水分量、食事量をチェックし一人ひとりの状態に応じた支援をしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声かけを行い、必要な方に毎週金曜日訪問歯科の診察、指導を受けている		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人記録に排泄状況を記入し、一人ひとりの力に応じて言葉掛け、トイレ誘導等を行っています。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルト、オリゴ糖、散歩、ラジオ体操等個々に応じた予防に取り組んでいる		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりに添った支援を心掛けているが、時間帯は、ある程度決めている。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息が必要な方には提供し、個々の生活習慣に応じた良眠できるよう支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬情報の確認をし、きちんと飲んだか毎日最後まで確認するよう努めています。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの趣味楽しみ事等理解し支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望に添うよう支援しているが、時間、場所によっては、支援できない事もある。		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に利用者は、お金を所持していませんが、必要に応じて職員御家族等と買い物にいきます。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	一人ひとりの力によって、できる範囲で支援しています。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節毎に飾り付けを変え、行事の写真を貼る等居心地良く過ごせるよう工夫している。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりの居場所があり、思い思いに過ごせる工夫をしている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の希望や好みの物を置いて居心地良く過ごせる工夫をしている。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全な環境作りをし、一人ひとりのADLの把握をし、安全かつ自立した生活が送れるよう工夫している。		

目標達成計画

事業所名 ふれあいの里 グループホーム とみおか

作成日：平成 22年 12月 07日

市町村届出日：平成 22年 12月 08日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	災害、非常時に必要な非常持ち出し品などの備蓄が整われていない。	非常時に備え、非常持ち出し品リストを作成し半年ごとに点検、見直ししていく。	常備品の準備、玄関横の物入れに設置する。	1ヶ月
		災害、非常時の避難場所等の協力体制が整っていない。	災害、非常時における近隣協力体制の基盤を作る	町内会、近隣住民、警察署に協力体制の依頼、ホーム独自のマニュアル作成の取り組み実施	3ヶ月
2	26	ケアプランにおける課題の共有化の様式の見直し	職員参加型の項目に沿った書類の作成作りを行なう	職員全員の意見を取り入れながら、見やすく、わかりやすい書類作成に努める	3ヶ月
3					
4					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。